

氏名	Pongthai THAIYOTIN		
学位の種類	博 士（農 学）		
学位記番号	博 乙 第 2795 号		
学位授与年月日	平成 28年 7月 25日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当		
審査研究科	生命環境科学研究科		
学位論文題目	Economic Analysis for Competitiveness of Thai Fruits in Globalized Asian Market (国際化するアジア市場におけるタイ産果実の競争力に関する経済分析)		
主査	筑波大学教授	博士（農学）	茂野 隆一
副査	筑波大学教授（連携大学院）	Ph.D	古家 淳
副査	筑波大学教授	博士（農学）	松下 秀介
副査	筑波大学准教授	博士（農学）	首藤 久人

論 文 の 要 旨

グローバル化によって変化しつつあるタイ産果実の輸出環境の変化と輸出競争力の実態を実証的に明らかにすることが、著者が設定した本論文の目的である。その際、価格変動の特質や熱帯果実に対する消費行動に焦点をあて、計量経済学的視点から分析を加えることによって、分析に学術的な新規性を持たせることが意図されている。本論文において著者は、まずタイにおける果実生産の状況、市場価格、貿易の動向等について概観し、直面する課題を整理した後、下記の3つの分析を行っている。

第一の分析は、ロンガンを対象にタイ農家庭先価格と輸出先である中国での卸売市場での価格との間の伝達性について分析したものである。さまざまな取引費用などの存在から、価格の上昇、下落に関する非対称な伝達性を許容する推定方法によって分析を行い、中国におけるベトナム産ロンガンとの競争が高まった時期では価格伝達構造が変化していることなどを明らかにした。

第二の分析は日本におけるバナナの輸入需要関数の推計を行ったものである。輸入需要関数の推計にあたっては、月次の輸入数量、価格データを用い、ベクトル誤差修正モデルによる時系列分析を適用している。分析においては、特に日本とメキシコ、タイとのEPAの締結による輸入構造の変化に焦

点をあてており、この協定によるフィリピン産バナナの価格の動きに基づく、タイ、メキシコ、フィリピン各国産バナナの輸出競争力の変化について明らかにした。

第三の分析は、タイのバンコクにおける消費者へのタイ産オレンジと中国産オレンジの選択実験による支払意思額推定である。分析の結果からは、食品の安全性を示すラベルに対して高い選好をもつことが明らかになっており、消費者の食品の安全性への意識が示されている。これらの分析により、著者は食品安全基準を満たすように生産を行うための改善や国産・輸入品問わず安全性のための消費者への情報提供が重要であることを明らかにした。

審 査 の 要 旨

タイ経済にとって果実の輸出は極めて重要な位置を占めているが、近年、タイと海外諸国との間でFTA、EPAが締結されたことに伴って、その輸出環境は大きく変化しつつあり、その実態を実証的な分析により明らかにすることが求められている。著者はこのような研究上の背景を、自らの実務経験等をもとに的確に捉えた上で、計量経済学的手法を駆使し、課題にアプローチしている。分析に用いられたデータは、公的資料によるもの、消費者に対する選択実験によって得られたものなど多岐にわたるが、それぞれ実態解明のために適切に選択されている。また著者が分析に用いた統計手法は、課題へ接近するためによく吟味されている。本論文の論旨は明確であり、論理的に議論が展開されている。

本論文における分析により、著者は近年のタイ産果実の市場における価格形成メカニズムが大きく変化していること、グローバル化の進展により果実の国際市場における競争構造が変わりつつあること、消費者の購買行動に農産物の安全性が大きく関わっており輸出振興のためにはその対策が欠かせないこと、などを明らかにした。これらはいずれもタイ産果実の輸出環境の変化を理解する上での基礎的知見を提供しており、本論文によってもたらされた研究成果は有意義なものであると判断する。また、タイ産果実の価格伝達機構や、消費者選好に関する研究は、この分野の実証分析の着実な積み重ねに貢献するものであり、今後さらなる研究を誘発することが期待される。以上のことから、本論文は学術的に価値のあるものと考えらる。

平成28年5月16日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び学力の確認を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものとして認める。